

雅風会たより

第5号



目次

- ◆ はじめに
- ◆ 第58回 仏教美術展報告
- ◆ えにし
- ◆ 記念館の仏様
- ◆ 義母の観音様
- ◆ 仏像彫刻教室から - 仏頭編 -
- ◆ あ・ら・か・る・と

2022年1月10日 編集・発行 仏像彫刻「雅風会」
埼玉県所沢市狭山ヶ丘 2-2090
川村雅則佛像彫刻記念館
URL: <http://www1.cts.ne.jp/~h-1butsu>

◆ はじめに

「雅風会たより」第5号発行の運びとなり、皆様のご厚情の賜物と心から御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染状況に一喜一憂しながらの日々が続きました。そのような状況でも、秋には全国の緊急事態宣言が明けて第58回仏教美術展が開催され、当会も参加・出品することができました。コロナの影響で例年より小規模でしたが、会場は、仏様で埋め尽くされる美しさと迫力と・・・、まさに別世界。はじめて足を運ばれた方は本当に驚かれておりました。

また、秋には記念館教室に新しい生徒さんを迎えて、少しずつ活気が戻っています。

感染対策はまだまだ続きますが、一日も早く日常が戻り、私たちの作品展を開催できることを願いつつ、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

◆ 第58回仏教美術展報告



緊急事態宣言明けまもなくの開催でしたので、新型コロナウイルス感染予防のため、会期中はもちろのこと搬入日も、「搬入作業はグループ別で展示後はすぐに退出」との対策がとられました。搬入日のみ可能な「写真撮影」も

大急ぎだったのは残念でしたが、今年は展覧会が無事開催され、久しぶりに仲間と再会できたのはなにより嬉しいことでした。

心に残ったことからひとつ・・・、会場に、白木の吉祥天がひととき美しく輝いていました。まるで天から降りてこられたかのようです。お像の前に行っては帰り、また離れては戻りして、時間の許すかぎり吉祥天の御前におりました。

浄瑠璃寺の吉祥天は故川村先生も彫られていて、数人の生徒も彫像を試みている魅力的な仏様です。今回会場に来られなかった方にも見ていただきたくて、作者の柚山宗寛先生に、雅風会たよりへの写真掲載を快諾していただきました。写真では限界がありますが、この感動を少しでも皆様にお伝えすることができましたら幸いです。



◆ えにし (杉山 明美)

第58回仏教美術展に、出品させていただいた弥勒菩薩半跏思惟像には、悲しい思い出があります。薬師寺東京別院で、開催された仏像展を拝見した折、書道教室のあることを知り、通い始めました。不思議な御縁の始まりでした。お近づきになった方が、私共にお越しになった時、未完の仏像を御覧



になり、亡くなられた御主人様が大好きな仏像なので、御仏壇の側に置きたい、とまでおっしゃいました。しかし、その方も間もなくして、御主人様の元に旅立たれてしまったのです。それからは、御二方の御冥福を祈りながら彫り続けました。その後、東博での中宮寺展では、いろいろな事が思い出され、御像の前で、どれほどの時、佇んでいたのでしょうか・・・。ほほに手をあて、全てを包みこむやさしいほほえみに、自然と手を合わせておりました。そして、会津八一の「中宮寺にて」の詩も大好きと言っていた事を思い出しました。

「みほとけの あごとひじとに あまでの あさのひかりの ともしきろかも」

京都の会場に、黄泉の国からお二人して、お越しになられ、ご覧いただけたいと思います。

合掌

◆ 記念館の仏様



川村雅則佛像彫刻記念館の玄関を入ると、両側の壁に仁王の大きなパネルがかけられています。右が阿形、左が吽形。昭和 57 年作で、故 川村先生の若き日の鑿の勢いが感じられます。

先生は作品をお手元から放される時はいつも大判の写真かパネルにされていました。そのおかげで記念館には実物か写真のいずれかが展示され、全ての作品の鑑賞を体験することができます。



先生が他界されてから 3 年。御仏前に京都の大吟醸酒をお供えし、第 58 回仏教美術展に無事出品、参加できたことを報告しました。

コロナ禍が落ち着いて、記念館で皆様とゆっくりのびのびと仏像談義ができる日を、心待ちにしております。

◆ はは 義母の観音様 (佐仲 努)



家内の母は明治の人で、深く観音様を信仰していた。といっても講に加わるとか、始終寺廻りをするとかいうわけではなく、小さな仏壇の中に、家内が中学の遠足で高崎の観音様に行った時に買って来たという、土を焼いて着色した、高さ四寸五分位の白衣観音を納め、毎朝一番に入れたお茶と水を供えて、短いお経を上げるのを日課にしていた。

その観音様は、色もはげ、あるときはお首がもげて、それを竹串で継いで接着したこともあった。(写真左)

私は、どうせ拝むなら、もっと立派な観音像の方が良かろうと思ったが、その頃の私は、仏教とか仏像とかには全く無関心であったから、仏師の存在さえ知らず、仏像を手に入れる方法など全くわからなかった。

そんな折に、偶々やって来た義兄が、自分で彫ったという広隆寺の弥勒菩薩の小さな像と、『仏像彫刻のすゝめ』という本を出して、これから仏像彫刻をやるというので、本の中味を見せてもらおうと、私でも出来そうな観音像の彫り方が載っていた。これを見て、よそから買うよりは自分で彫ってやろうと思ったのが、私の仏像彫刻のスタートになった。四十歳を少し過ぎた頃のことである。

以来観音像を随分彫ったが、義母の観音様に代って、私の彫ったものが仏壇に入ることは全くなかった。

義母が亡くなる前の頼みで、この観音様の毎日のおつとめを私がやることになった。今も毎朝お茶と水を供え、経をとこなえているが、もう二十六年にもなるのに、この観音様に代えて仏壇に入れようと思う様な観音像は、ひとつも彫れていない。



◆ 仏像彫刻教室から - 仏頭編 -

基礎の地紋彫りから始めて、足、手の彫り方を学んで彫刻刀の使い方がだんだん身についてきたと思います。早く全体像を彫りたいという気持ちが沸々と湧いてきたと思いますが、はやる気持ちを抑えて基礎をしっかりと身に付けていきたいと思います。

従いまして、今回は仏像（仏様）を彫っているのだと実感することができる、仏頭の彫り方を学びましょう。教科書（仏像彫刻のすすめ）P57～を参考に、立像1尺用の地藏菩薩の仏頭を彫ってみましょう。地藏菩薩仏頭の下図（P58）を参考に材料（1寸5分×1寸6分、長さ3寸の桧など）に正確に書き写します。書き写した寸法に間違いがないか今一度



確認をします。よろしければいよいよ彫りに入ります。

教科書の図をよく観察して、鋸とノミを使って、書き写した線が消えないように不要な部分を注意深く切り落としていきます。（P59～60を参照）以下、教科書の順番通りに彫り進めて行き、四角かった材料からだんだんと丸みを帯びた、頭の形にしてゆきます。

正面から鼻、目、口、顎の位置を、横顔からは目のくぼみ、鼻、口の高さ、耳の位置を正確に捉えて彫って



ていきます。数多く彫ることでだんだん上手くなります。釈迦如来仏頭で螺髪（らせがみ）の彫り方を、聖観音仏頭で流れるような優雅な髪型と宝冠の彫り方を学びます。（教科書のP74～103参照）

これから全体像を彫って

いくにつれて色々なお顔の仏像に出会うことでしょう。楽しみがだんだん増えていきます、頑張りましょう。（文責：竹内）



*** あ・ら・か・る・と ***

◆ 第59回仏教美術展のお知らせ

日時：2022年11月3日（木）～11月6日（日）

例年ですと7月初旬までには開催・出品申し込の案内が郵送されてきますので、次の第6号では詳細をお知らせできると思います。

研鑽会、教室、賛助会の皆様、出品ご希望の方は、作品の準備をよろしく願いいたします。

※当日の搬入・搬出が無理な方は、竹内（090-9670-5328）までご相談ください。

◆ 川村雅則佛像彫刻記念館の新型コロナウイルスの感染予防対策について

引き続き、記念館へ来館（見学）される時は、お手数ですが事前に記念館（080-3360-4019）までご連絡ください。また、ウイルス感染予防及び拡散防止のため、マスクの着用にご理解ご協力を宜しくお願い申し上げます。